

整理番号	8
------	---

リサーチグループ登録届出書

平成 25 年 7 月 22 日

1. リサーチグループの概要

リサーチグループの名称 知のサーキュレーション
リサーチグループの名称(英語) Circulation of Knowledge
分野 (1.人文系、2.理工系、3.生物系、4.複合系) 4
設置開始時期 2013 年 7 月
設置終了時期 2018 年 3 月

2. リサーチグループ代表者

所属・職名 図書館情報メディア系・准教授
氏 名 宇陀則彦
氏名(英語) Norihiko UDA

3. 連絡先

所属・職名 図書館情報メディア系・准教授
氏 名 宇陀則彦
電 話 029-859-1481
F A X 029-859-1093
E - m a i l uda@slis.tsukuba.ac.jp

4. 担当部局 (当該リサーチグループの運営等を管理する部局名)

図書館情報メディア系

共通様式②

5. 構成員一覧について

氏名	所属部局	職名	専 門	学位	役割分担
宇陀則彦	図書館情報メディア系	准教授	デジタルライブラリ	博士 (工学)	代表者
逸村裕	図書館情報メディア系	教授	ライブラリガバナンス	文学修士	モデル構築
池内淳	図書館情報メディア系	准教授	公共図書館	修士(図書館・情報学)	コモンズにおける実験
上保秀夫	図書館情報メディア系	准教授	情報探索行動	Ph.D. in I.S.	情報行動分析
高久雅生	図書館情報メディア系	准教授	デジタルドキュメント	博士 (情報学)	電子教材作成システム構築
辻慶太	図書館情報メディア系	准教授	知識資源の用語管理	博士 (教育学)	電子教材作成手法の確立
手塚太郎	図書館情報メディア系	准教授	統計的言語モデル	博士 (情報学)	情報アクセスシステム構築
呑海沙織	図書館情報メディア系	准教授	図書館文化史	博士 (創造都市)	モデル構築と電子教科書作成
芳鐘冬樹	図書館情報メディア系	准教授	情報評価	博士 (教育学)	知のサーキュレーション評価
三波千穂美	図書館情報メディア系	講師	テクニカルコミュニケーション	文学修士	コモンズにおける実験
時井真紀	図書館情報メディア系	講師	計算シミュレーション	博士 (理学)	電子教材提供システム構築
関洋平	図書館情報メディア系	助教	情報アクセス技術	博士 (情報学)	情報アクセスシステム構築
原田隆史	同志社大学・社会学部	准教授	図書館システム	文学修士・ 工学修士	ディスカバリサービス構築
佐藤翔	同志社大学・社会学部	助教	学術情報基盤	博士(図書館情報学)	モデル構築と情報アクセス評価

共通様式③

6. 科研費細目番号	主なものから順番に3つまで記載してください。		1303A	1302A	1304
7. キーワード (5つまで)	知識インフラ	知のサーキュレーション	知識資源	研究支援	学習環境
8. キーワード (英語)	knowledge infrastructure	circulation of knowledge	knowledge resources	research support	learning environment
9. 研究グループ HP	URL を記載してください。	http://phoenix.slis.tsukuba.ac.jp/circuledge/ (予定)			
10. 研究グループ概要 (1000字程度)					
<p>本研究グループは「知のサーキュレーション」というモデルを提案し、実際にシステムを構築することで「知識インフラ」の在り方について考察する。本研究では、「知のサーキュレーション」を“知識が再利用されることで、意味や価値が遷移し、新たな知識が生成されること”と定義する。</p>					
11. 研究グループ概要(英語)					
<p>This research group proposes a model called circulation of knowledge and discusses functions of knowledge infrastructure by developing information systems. The circulation of knowledge is defined as creation of new knowledge due to transformation of meaning and value caused by recycle of existing knowledge.</p>					
12. 設置の目的及び必要性					
<p>第4期科学技術基本計画では、研究情報を統合して検索、抽出することが可能な「知識インフラ」の構築を進めるとあり、各方面で知識インフラの整備をうたったプロジェクトが展開されている。しかしながら、「知識インフラ」の具体的在り方についてはほとんど研究されてない。そこで本研究グループを設置することで、この問題について研究する。</p>					
13. 研究計画					
<p>まずは大学という様々な知識資源（人、資料、場）が容易に利用が可能な環境において、知のサーキュレーションを構築し、実証実験を行う。</p>					
14. 研究・教育に期待される効果 (箇条書き)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学における知識の循環（サーキュレーション）が促進される。 ・ 研究や学習における新しい共有環境（コモンズ）を構築できる。 ・ 大学間における知の共有が実現する。 ・ 社会における知識インフラの在り方が明らかになる。 					